

## ウナギ産卵場生態調査 II. 産卵後の雌ウナギの捕獲

黒木洋明・岡崎 誠・高橋正知・張 成年（水研セ中央水研）・神保忠雄（水研セ南伊豆セ）・橋本 博（水研セ志布志セ）・望岡典隆・田和篤史（九大院農）・青山 潤・篠田 章・塚本勝巳（東大海洋研）

【目的】ウナギ (*Anguilla japonica*) の産卵海域と想定されている西マリアナ海嶺南部海域においてウナギ成魚を捕獲し、ほとんど知見が無い外洋域におけるウナギの生態特に繁殖に関連する生態に関する情報を得る。

【方法】サンマ調査用に開発された大型表中層トロール網（ニチモウ社製：最大開口部縦 50m、幅 60m）を水産庁調査船開洋丸（2,630 トン）により、夜間、150～500m の水深帯を4～5 ノットで3～5 時間曳網した。

【結果】平成20年6月に成熟した雄ウナギの捕獲実績がある海域（北緯13度、東経142度付近）で同年8月25日～8月30日にかけて中層トロール調査を行ったが、ウナギは捕獲できなかった。そこで、調査海域を変更すべきと判断し、8月31日（新月）に西マリアナ海嶺に沿って約100km北上した。同日20時51分、北緯14度0分、東経142度52分（スルガ礁の南約30km）から、海嶺を横切るコース（水深1600～3500m）で北西方向に曳網を開始、水深220～320m層で2時間30分、180～230m層で2時間30分の計5時間の中層トロール曳網を行ったところ、2個体のウナギ（全長55.5cm、66.2cm）を捕獲できた。これらはコッドエンドへの入網ではなく、2個体とも網目の大きな身網部分の網地に引っかかる状態で捕獲されたことから、強い遊泳力を失った状態で入網したものと推定された。生殖腺の組織学的観察から2個体とも雌と判定されたが、腹腔内に卵がほとんど残されていないことから、今回捕獲された個体は産卵後の雌と考えられた。また、ウナギを捕獲した中層トロールの曳網コース付近の海域で、9月2日～3日にかけて、少なくとも27個体のウナギのプレレプトケファルスが採集された。以上より、当該調査海域がウナギ産卵場であったことは疑う余地がない。